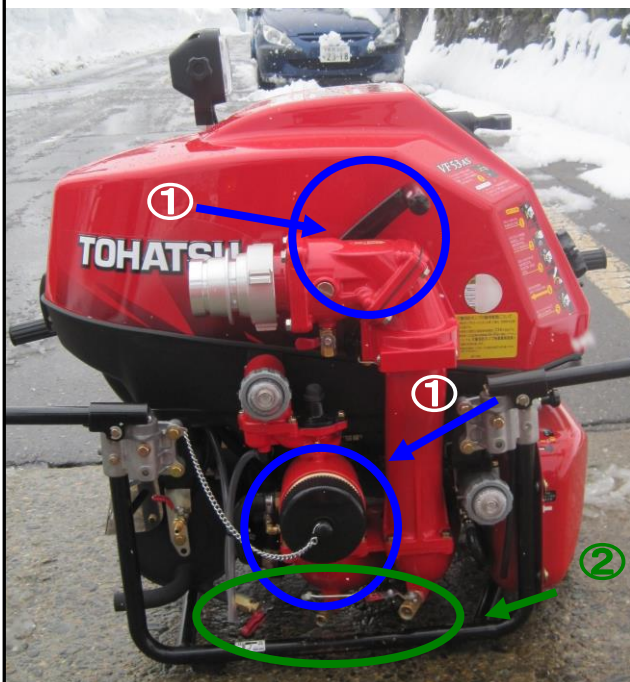


【始動前点検】

① 各部のゆるみはないか。



放口バルブ



吸管結合部

② 燃料漏れはないか。



パイプ取り付け部

③ 各排水バルブは閉じてあるか



ポンプ排水バルブ
マフラ排水バルブ

【燃料・オイル等】

④ 適量入っているか



エンジン オイル
レベルゲージ



燃料ゲージ

【エンジン始動】

⑤ 始動性はいいか

(リコイルスタータ始動の場合)



(セルスタートの場合)



* 留意事項 *

- ・引きが重くなった位置から一気に引く。
- ・スタータロープの劣化も合わせて点検する。



* 留意事項 *

- ・メインスイッチは二段階操作でエンジン始動する。
- ・積載車格納時は、バッテリー上がりを防ぐため自動充電器を常時ポンプにつないでおく。

【真空・吸水状況】

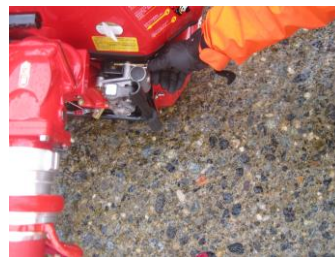
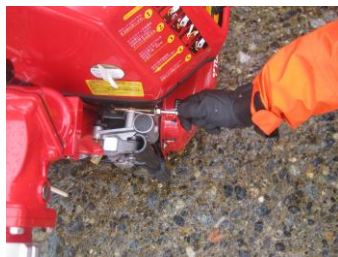
（自動吸水 OFF の場合）



（自動吸水 ON の場合）



⑥ 手動真空ノブの作動はいいか



* 留意事項 *

・手動真空ノブを真空側に操作したら、必ず放水側に戻すこと。

⑦ V ベルトの滑りはないか



* 留意事項 *

・真空操作中に異音や煙が上る場合
また、なかなか吸水できない場合は
V ベルト滑りの原因が大きい。

⑧ ポンプの異常はないか

⑨ 落水はないか



【放水状況】

⑩ エンジン異常（異音、振動）はないか



⑪ 筒先ノズルの作動性はいいか



噴霧ノズルの確認

【スロットル調整】

⑫ 高速・低速のレスポンスはいいか



⑬ 圧力計の振れはいいか

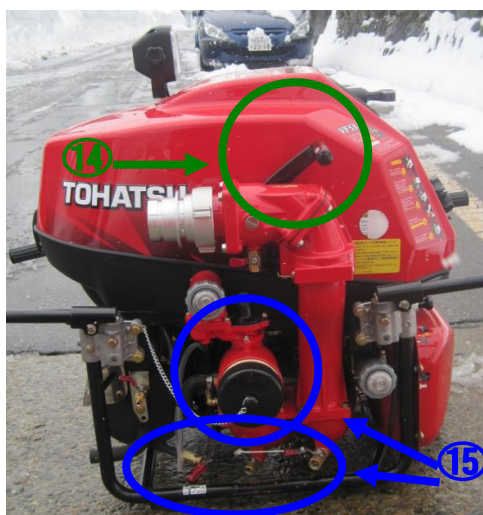


【エンジン停止】

⑭ 放口弁ハンドルは
確実に閉まるか



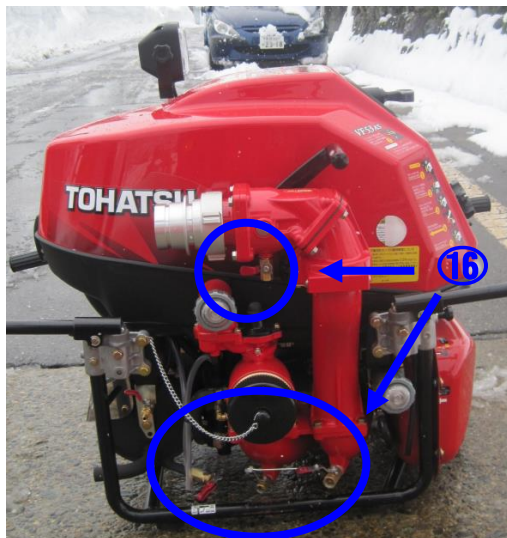
⑮ 各部からの
水漏れはないか



* 留意事項 *

・吸管結合部からの水漏れは
パッキン劣化の可能性大。
真空形成にも支障をきたす。

【完全排水】



⑩ 各部のコック、バルブを開き完全に排水したか



*** 留意事項 ***

・現場引き上げ時に水抜きをしても、
帰庫後の積載車格納時に
再度排水ドレンをすること。



【格納 - 保管】

⑪ 不凍液の注入をしたか
(冬期間)



⑫ 燃料を満タンにしたか



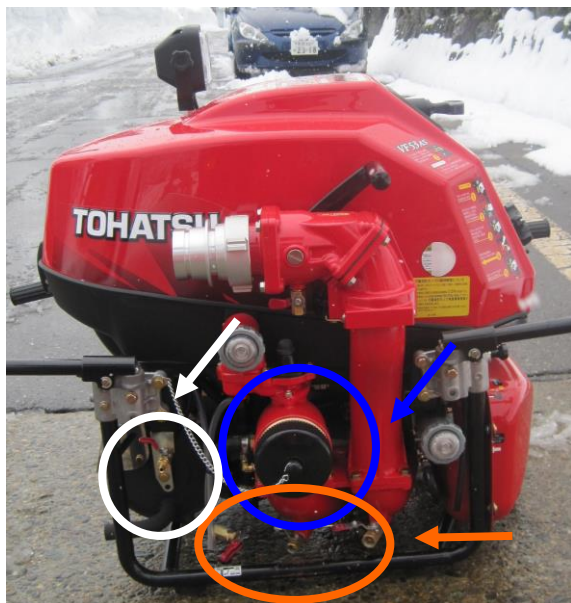
⑬ 吸管ストレーナのゴミ詰まりはないか



《最終点検項目》 ポンプは汚れていないか！？

トーハツ VF53AS 不凍液注入方法マニュアル

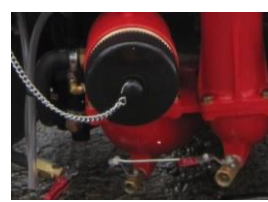
【完全排水】



- ① エンジン停止状態にて、ポンプ、シリンダの排水を完全に行い、吸水口キャップを閉じる。ポンプ排水バルブとマフラ排水バルブを「閉」、排気用空気バルブは「開」にする。



排気用空気バルブ「開」



ポンプ排水バルブ及びマフラ排水バルブは「閉」

【ビニールパイプ結合】



- ② 排気用空気バルブに付属のビニールパイプを結合する。

【ポンプ内の水滴集約】



- ③ 自動吸水スイッチを「ON」にしてエンジンを始動する。



- ④ スロットルを「吸水」位置にし、約5秒間ポンプ内の水滴集約の為、空運転し、エンジンを停止する。

【ビニールパイプ挿入】



- ⑤ 不凍液（180～200ml.）の入っている容器に排水用空気バルブのビニールパイプと真空ポンプから下側カバーを通して出ているビニールパイプ（エアアシストパイプ）2本を入れる。



排気用空気バルブパイプ



エアアシストパイプ

【エンジン始動・真空操作】



- ④ 自動吸水スイッチ「ON」の状態
でエンジン再始動する。



スロットルダイヤルを「吸水」位置にし、エンジンが自動停止するまで（約30秒間）運転させる。



【エンジン停止】



- ⑤ メインスイッチを
停止位置にし、排水用空気
バルブを閉じる。

【放口への注入】



- ⑥ 放口弁ハンドルを閉じ、放口弁のボール部にも
オイル差し等で不凍液を注入する。

《最後に》 飛び散った真空ポンプオイルをきれいに拭き取る！！